

とちぎの食と農業アクションプロジェクト推進方針

令和7（2025）年8月20日 とちぎの食と農業アクションプロジェクト推進協議会

1 趣旨

- 農業者の急減や高齢化をはじめ、気候変動による異常気象、国際情勢の不安定化に伴う農業資材等の価格高騰など、農業を取り巻く情勢は大きく変化し、食料の安定供給への懸念が生じている。
- ライフスタイルの変化に伴い食の外部化・簡便化が進み、食と農業の距離が広がりつつあるなか、双方の理解を深め、信頼関係を構築し、食と農業の距離を縮める取組が求められている。
- ◎ 将来にわたって本県の食と農業の持続性を確保していくため、地産地消や食育の取組を一層充実・強化し、生産・流通・加工・消費に携わる者がお互いを理解し応援し合う、県民参加型運動「とちぎの食と農業アクションプロジェクト」を、官民連携により推進するための方針を策定する。

2 現状及び課題

(1) 現状

食	<ul style="list-style-type: none">● ライフスタイルの変化に伴い食の外部化・簡便化が進み、消費者と農業現場との距離が広がりつつある。● 物価上昇に伴う食品価格の高騰により、消費者の購買行動や価値観が変化している。● 国産や新鮮さ、安全・安心な農産物への需要は高まっている。● 米不足及び米の価格高騰等を背景とし、食料生産に対する農業の役割や食品の適正な価格形成への関心が高まっている。● これまでの「とちぎ地産地消推進方針」や「栃木県食育推進計画」等に基づく各種取組により、県民には地産地消や食育が徐々に浸透し、とちぎの食と農業を応援する気運が高まっている。
農業	<ul style="list-style-type: none">● 担い手の急減（20年後には基幹的農業従事者が1/4に減少）、労働力不足、国際情勢の不安定化等に伴う資材価格の高騰、気候変動による農業への影響の顕在化等を背景に、食料安定供給への懸念が生じている。● 県内農業者は、安全で美味しい食料の安定供給に向け、スマート農業等による生産性の向上や気候変動に適応した品種や栽培技術の導入など、様々な対策を講じている。● 国では食料・農業・農村基本法を改正し、食料安全保障の強化や、農産物の適正な価格形成に向けた制度整備や普及啓発等を進めている。

(2) 課題

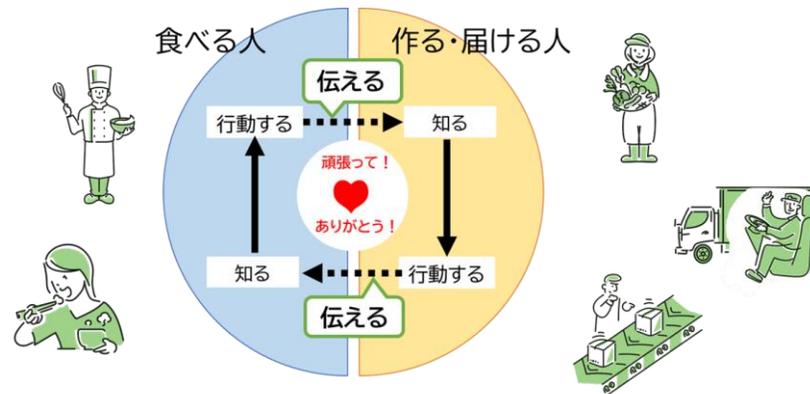
- 県民に地産地消や食育は認識されてきているが、食や農業を取り巻く情勢や農産物の再生産可能な価格など、食料の安定供給に関する知識や理解が十分に浸透していない。
- 県民にとって、買い物や飲食で県産品を選択することや食と農業に関するイベント参加等についてはハードルが低く行動に移しやすいが、より農業との距離が近づくと考えられる農業ボランティアへの参加や自ら食や農業について発信すること等についてはハードルが高く、行動に移しにくい傾向がある。

3 対応の方向性

- とちぎの食と農業の持続性を確保していくため、**生産・流通・加工・消費に携わる関係者の更なる相互理解の促進及び信頼関係の構築**を目指す。
 - 地産地消や食育の取組を基本とし、県民一人ひとりの、食と農業を応援する『もう一步踏み出す行動』を促進する。
 - ① 食と農業の魅力や大切さや、食と農業を取り巻く情勢に関する情報を発信
 - ② 生産・流通・加工・消費に携わる関係者同士の相互理解の促進
 - ③ SNSによる発信など、県民自らが食と農業を応援したくなる環境づくり・仕組みづくり
- 本プロジェクトは、これらの取組を加速させるとともに、県民自らが食と農業を応援する『もう一步踏み出す行動』をとる行動変容を起こすための特別プロジェクトとする。

4 目指す姿

県産農産物に関わる生産・流通・加工・消費のそれぞれの立場の人たちが、お互いのファンになって感謝を伝え合い、自らがSNS等で食と農業に関する情報を発信し、お互いを応援し合うことにより、みんなで「とちぎの食と農業」を盛り上げ、誇りを持って未来へ繋げていく



5 推進体制

関係機関・団体、市町等で構成する「とちぎの食と農業アクションプロジェクト推進協議会」では、本方針に基づき構成団体等の取組を共有するとともに、適宜改善を図りながらプロジェクトの推進に取り組む。

構成団体：45団体（農業団体7、生産者団体3、商工団体等2、消費者団体3、教育関係4、25市町、県）
設立日：令和6（2024）年8月23日

6 推進に向けた考え方

○ プロジェクトの重点的なターゲット

将来の食と農業を支えていく世代である、10代～40代を重点的なターゲットとする。

① 高校生・大学生など、今後10年以内に積極的に農産物や食品を選択・購入し始める世代（10～20代）

② 農産物や食品等を購入し、子どもたちへ料理等を提供する子育て世代（20～40代）

取組推進

～ とちぎの食と農業のファンになる ～

「買い物や食事等で県産農産物を積極的に選択する」、「家族で農業体験に参加する」、「食や農業への思いをSNSで発信する」など、とちぎの食と農業に対する応援行動を起こす人

○ プロジェクトの推進ステップ

食や農業に対して「関心の低い人が、食や農業の魅力や大切さに気づき、自らもその価値を発信する人になること」、「既に関心の高い人が、農業体験への参加や自発的な情報発信など、一層深く食や農業に関わる人になること」を促す。

県民に【①知ってもらう】

県民に対し、食と農業について、HPやSNSをはじめ様々なメディアやイベント等を通じて、効果的・積極的に情報を発信し、知識・理解・意識を高めていきます。

県民に【②行動してもらう】

「県産の農産物を購入する」、「食材の産地を調べる」、「農業イベントに参加する」など、食と農業に対する応援行動につなげていきます。

県民に【③発信してもらう】

県産農産物や農業体験の感想、農業者への感謝の思い等を発信してもらうためのきっかけや仕組みをつくることにより、食と農業に関する積極的な情報発信を促していきます。

7 推進方策

- 協議会は、プロジェクトの推進ステップに沿った県民の理解促進や、行動変容につながる環境づくりに取り組み、本プロジェクトの機運醸成を図る。

	県民に【①知ってもらう】	県民に【②行動してもらう】	県民に【③発信してもらう】
食べる人	<ul style="list-style-type: none"> ● 興味をもたらずには調べる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 買い物や食事などに、県産農産物を選ぶ ● 身近で開催されるイベントや気軽な体験に参加 ● より深く学び、関わる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 食や農業への思いを発信
作る・届ける人	<ul style="list-style-type: none"> ● 知ってもらいたいことは積極的に発信 	<ul style="list-style-type: none"> ● 食べる人や他分野の人と一緒にできる活動を考える ● 関わる人の声を聞く ● より深く学び、工夫する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 応援メッセージへ応答
協議会	<ul style="list-style-type: none"> ● 食と農業に関する効果的な情報発信 ● 食と農業をめぐる新たな情勢に関する情報提供の促進 ● 地産地消の拡大や食育活動の推進に向けた情報発信の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 食と農業に関する体験型イベントやコンテスト等の開催 ● マルシェや県産農産物の販促イベント等による県産品の活用促進 ● セミナーやシンポジウム等、食と農業を学ぶ機会の提供 ● 作る・届ける人が、食べる人へ向けて実施する情報発信等への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ● とちぎの食と農業アクションプロジェクト推進協議会の各構成団体の取組状況等の発信 ● 食べる人、作る・届ける人へ、お互い感謝を伝える新たなプラットフォームの創出 ● キャンペーン等の活用による、食と農業を発信してもらう仕組みの構築

8 推進期間

- 令和7年度（推進方針策定時）～令和12年度（6か年）